

目標となる指標の推移 KPI

項目	性別	(参考)	計画初年度				計画最終年度	
		2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	
健康寿命	男	82.72歳	82.94歳					
	女	85.97歳	86.30歳					
介護等が必要な期間	男	1.42年	1.43年					
	女	3.18年	3.13年					

第3次計画最終年度となる2020年度と比べ、2021年度は男女ともに健康寿命は堅調な伸びを見せており、介護等が必要な期間も女性では微減となった。

評価指標

地域予防対応力			(参考)	計画初年度				計画最終年度	
			2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	
互助	互助	千人あたり	39.1	46.0					
自助	自助	千人あたり	2,026.6	2,238.7					
合計	合計		2,065.7	2,284.7					

第3次計画最終年度となる2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりコロナ禍になる前と比べ大きく数字を落としている。2021年度は感染症対策やワクチン接種も進み、地域での活動等が徐々に戻りつつあることが地域予防対応力からも推察される。

生活満足度（まちづくりアンケート）			(参考)	計画初年度				計画最終年度	
			2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	
参画度			51.1%	41.0%					
満足度			56.2%	54.0%					

2021年度から第2次伊賀市総合計画第3次計画期間となったためアンケートの項目に変更があり、それまで健康福祉分野では8つの施策があったが6つにまとめられた。満足度参画度ともに減少しているため今後向上させていく取り組みが必要となる。

第4次地域福祉計画に基づく2021（令和3）年度の取り組みについて

◎地域福祉計画策定に係る説明会の実施

- ・市内22箇所で実施（全自治協に資料送付済み）

◎重層的支援体制整備事業の実施

- ・包括的相談支援事業

（高齢・障がい・子ども・生活困窮の各分野及び福祉総合相談窓口の設置）

- ・継続的支援事業

（アウトリーチ等により支援が必要なのに届いていない人や世帯に継続的に関わり（伴走支援）続け、必要な支援に結び付ける事業）

令和3年度対応件数・・・199件

- ・多機関協働事業

（複数の分野にまたがる課題を抱える個人や世帯に対する各支援専門機関の役割のコーディネート、庁内連携体制構築のために相談支援包括化推進員を配置する事業）

令和3年度個別会議開催件数・・・9件

運営推進会議開催件数・・・15件

- ・参加支援事業

（社会とのつながりを構築し、社会参加につなげる事業）

令和3年度

居場所づくり講座 in 農園の実施

（講座は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、居場所として農園を活用できるように整備）

ひきこもりサポーター（ひきこもりの方ご本人や家族に寄り添い支える人材）養成講座の実施

- ・地域づくり支援事業

（高齢・障がい・子ども・生活困窮の各分野における地域づくり事業の実施）

①地域介護予防活動支援事業

②生活支援体制整備事業

③地域活動支援センター

④地域子育て支援拠点事業

⑤共助の基盤づくり事業

- ・重層的支援体制整備事業に係る各要綱等の策定

（重層的支援体制整備事業実施要綱、相談支援包括化推進員設置要領、重層的支援会議設置要綱）

- ・重層的支援体制整備事業実施計画の策定

○伊賀市における地域共生社会の実現と重層的支援体制整備事業の関係



◎その他の取り組み

- 地域共生！いがまる通信の発行
- 先進地との交流（福岡県久留米市）
- 厚労省主催の研修参加とフィードバックでの共有化によるスキルアップ

